

私立大学図書館協会 2021 年度西地区部会研究会 要旨

研究発表 (1) 「近畿大学と他大学図書館のコロナ対策事例から次の一手を考える」

近畿大学農学部図書館

近藤 明子

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、2020 年 1 月に日本で最初の感染者が発見された後、1 年以上経過した現在も終息しておらず、2021 年 5 月現在、感染の第 4 波の真っ只中にある。関西では、大阪府・兵庫県・京都府に 3 度目の緊急事態宣言が発出され、自治体からの要請により、大学の授業は原則オンラインとなり、入構制限が行われているため、大学図書館においてもオンライン・非来館型のサービスを中心に展開する状況になっている。

2020 年度、近畿大学農学部図書館ではコロナ対策として、近畿大学本部及び中央図書館が打ち出した学生支援策「宅配図書貸出サービス」、「『今だから読んでもらいたい本』 Amazon 図書商品券の配信」を柱に、音声付きガイダンス資料の作成、学外からのデータベースや電子ブックの利用のフォロー、閲覧席の事前予約フォームの作成などを行った。また同時に、施設・設備面では、改修・増床工事を行い、座席数の増加やアクティブ・ラーニングスペースの設置、持ち込みパソコンの利用環境整備など、対面・来館型サービスへの準備も進めた。

2021 年度以降も昨年度と同様に、感染の波に合わせ、コロナ対策を織り交ぜたサービス展開が続くと推測される状況の中、新たに利用者に対してできることは何か。ヒントはどこにあるのか。

今回の発表では、昨年度の近畿大学図書館のコロナ対策を振り返ることで、課題や目標を明らかにし、他大学等の事例報告からヒントを探し、自館の「次の一手」について検討した内容についてご報告する。

研究発表 (2) 「Covid-19 対策を振り返る」

西南学院大学図書館

山下 大輔

新型コロナウイルス感染症（以下 Covid-19）は、現在も猛威を振るい収束は見えない。西南学院大学図書館では、2020 年 3 月 1 日から新型コロナウイルス感染症への対策を開始した。当初は、グループ学習室の閉鎖等一部施設の利用制限であり、安易に楽観的に考えていたことをよく覚えている。しかし、状況は日々変化し、対応の変更を余儀なくされていった。その中で、4 月 15 日のオンライン授業開始という全国でも早い時期の授業開始に合わせて、図書館はオンラインでのサービスを開始することが出来た。

1 年間に行った主なサービスは、以下のとおりである。

- ・運営体制の構築（Zoom や Slack 等各種 web の整備）
- ・図書館独自のガイドラインの策定（後に法人の行動指針に合わせて変更）
- ・ウェブセミナー（図書館員・学生・教員）全 36 回
- ・留学発表セミナー：全 7 回
- ・オンライン会議システムによる学修相談会：全 88 回
- ・メールによる学修相談会：計 113 件回答
- ・オンデマンドコンテンツの提供（図書館司書、学生、業務委託）：合計 5 種
- ・電子資料の整備拡充
- ・レファレンスの提供強化（オンライン授業支援等）

これらの対策について、改めて実施可能であった背景、ポイント、内容、効果等を振り返りつつ纏めると共に、今後の改善点、そして、不測の事態に対する対応についても検討する機会としたい。

私立大学図書館協会 2021 年度西地区部会研究会 要旨

研究発表 (3) 「コロナ禍における大学図書館のあらたな可能性を考える」

大阪芸術大学図書館
多賀谷 津也子

2020 年は、コロナ禍で、大学図書館も休館を余儀なくされた期間があった。休館中でも全く困ることはなかったと言った学生が、図書館司書課程を学ぶ学生の中にも居たことを聞き愕然とした。そのことが、コロナ禍における大学図書館の存在意義を考えるきっかけとなった。

2010 年は、電子書籍元年と言われ電子図書館熱も高まり、従来の紙媒体である「本」はなくなるか、来館型の「図書館」はなくなるか、という議論が再燃し、当時から、電子図書館機能と従来の図書館機能とを併せ持ったハイブリッド図書館を目指さなければならないと提言してきた。来館しての利用や非来館型の利用を使い分けることのできるハイブリッド図書館が理想であるが、若者の活字離れとも言われ、来館者が減る傾向を懸念されていた。電子図書館機能を有効活用しての非来館型利用であれば良いが、インターネットを使用して、グーグル (Google) やウィキペディア (Wikipedia) のみの検索結果 (正しいかどうかわからない情報) で満足しているとすれば、大いに問題がある。図書館本来の良さや必要性、意義等を知らずに利用しないとしたら、それは非常に残念なことである。図書館の良さを広く知らしめずに時代が進んで行けば、いずれは図書館の存在する意味がなくなるとも限らない。そのため、当時から、インターネットの世界にはない図書館という空間の演出や学生との協同、ラーニングコモンズの推進等、図書館資源をいかに生かすかを打開策として推進してきた。

しかし、コロナ禍においては、それら全てがほぼ機能できない状態になってしまった。コロナ禍という現状をどう受け止め、どこへ活路を見出さなければならないのか。学生のアンケート結果や他大学の図書館 PR 事例等を参考にしながら、大学図書館のあらたな可能性をともに考える機会としたい。